

## ～栽培のポイント〔基本技術〕の励行で高品質米生産！！～

### 1 稲作栽培のポイント

#### (1) 高品質生産のため品種や作期の検討

※品質へは、出穂後、登熟初期の温度条件や日較差が大きく影響する。

- ◆ 品種や栽培法により作期の分散を図る必要がある。
- ◆ 登熟期間の高温障害回避のため、田植時期を遅らせる。
- ◆ 田植時期にあわせて播種することが必要である。
- ◆ 刈取適期に達したら、早めの収穫作業を計画的に進める。

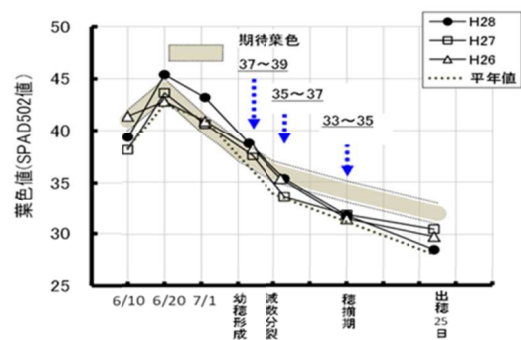
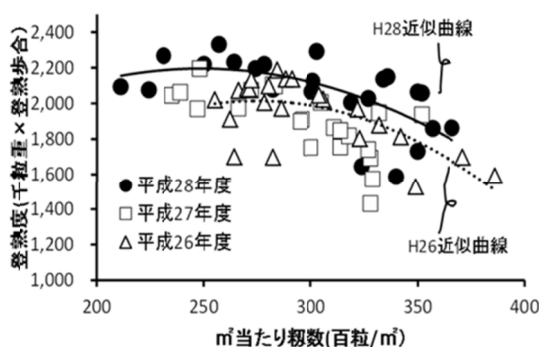
田植日	播種日	
	稚苗	中苗
5/10	4/15～20	4/5～10
5/15	4/24～28	4/15頃
5/20	5/1～4	—

#### (2) 適正籾数の確保

※籾数が多すぎると未熟粒が多く、品質が低下する。

※籾数が少なすぎると減収や割れ籾・胴割につながる。

- ◆ 適正籾数は、「ひとめぼれ」で 28～30 千粒/㎡程度である。
- ◆ 初期の過剰分けつを抑制し、有効茎歩合を高める。



#### (3) 肥培管理

※幼穂形成期以降の栄養条件が悪化（葉色の低下）すると品質低下につながる。

- ◆ 幼穂形成期以降、追肥等で期待葉色値を維持することが重要である。
- ◆ 近年高温で肥切れ傾向にあり、生育や気象状況に合わせた肥培管理が重要である。

#### (4) 水管理（特に登熟初期の高温時）

※初期生育が旺盛で過剰分けつ傾向にある。

※多年生雑草が増加している。（オモダカ、クログワイ、イヌホタルイ等）

- ※近年出穂が早まり，登熟初期に高温に遭遇し品質低下を招く機会が多い。
- ※機械刈対応のため落水が早過ぎたり，逆に降雨等で刈取適期に収穫できないことがある。
- ◆茎数を水や肥培管理で制御し，均平，丁寧な代掻きで雑草防除を徹底する。
- ◆異常高温の目安は，出穂後 20 日間の最低気温が 23℃以上である。
- ◆落水期の目安は，出穂 30 日以降とする。

水管理方法	概要	効果
掛流し灌漑	気温より低い用水の掛流し	<b>大</b> 水の確保が最大の課題 (毎分 200~300L 必要)
昼間深水 夜間落水	晴天時にできるだけ深く、夜間は落水	<b>中</b> 水量が少なくて済む。 効果は掛流しより小さい。
保水管理	灌水せず走水等で土壌を湿润に保つ	<b>小</b> 水利・水量がより少なく、煩雑さが無い。効果は掛流しより小さい。

収奪量（ほ場から持ち出される量）

粗玄米重650kg/10aの場合

成分	成分量(kg/10a)		
	葉&莖	穂	合計
窒素	4.4	6.5	10.9
リン酸	2.1	4.0	6.1
加里	14.6	2.6	17.2

### (5) 土づくりの重要性

- ※水稻の生育期間で窒素 10.9kg を吸収する。（大豆は約倍量）
- ※高温や冷害年時は，堆肥等の施用で品質が向上する。
- ※農業機械の大型化や直播栽培の普及により田面均平が重要になっている。

#### 土づくり4本

#### 【効果】

- ◆排水改良 地耐力向上，有害物質除去，根の健全化
- ◆土づくり肥料 ケイ酸質肥料，磷酸質肥料等の補給
- ◆有機物 保肥力・膨軟性向上，高温・冷害年の効果大
- ◆深耕 作土は養水分の貯蔵庫：目標 15cm，徐々に深く

注意) 転作面積の増加や圃場整備の進展に伴い田畑輪換で乾田化により，有機物の分解が進み地力低下を招いている一面もある。

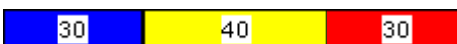
## 2 気象予報（仙台管区气象台公表）

### (1) 暖候期予報(3月~8月)

- ・6月~7月は平年と同様に曇りや雨の日が多い。その後は，平年に比べ晴れの日が多い。
- ・この期間の平均気温は，高い確率 50%である。

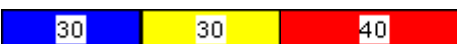
#### 〔夏（6月~8月）の気温、降水量の各階級の確率（%）〕

【気温】東北地方 

【降水量】東北地方 

 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

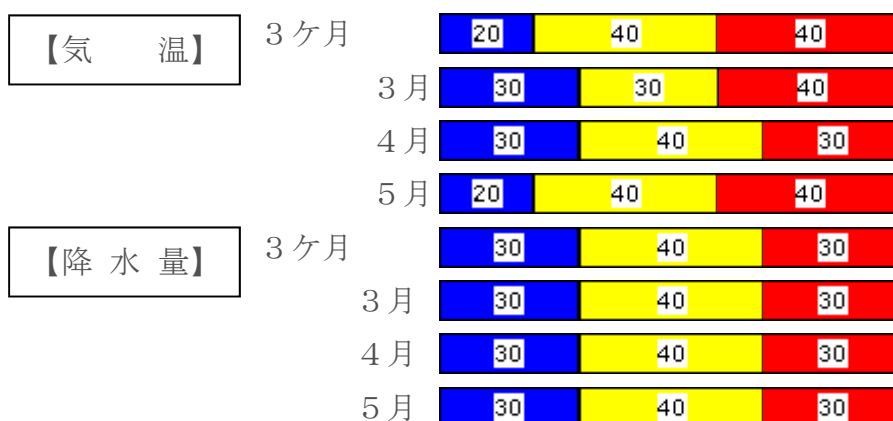
#### 〔梅雨の時期（6~7月）の降水量の各階級の確率（%）〕

【降水量】東北地方 

## (2) 3か月予報(3月～5月)

- ・平均気温は、平年並または高い確率ともに40%である。
- ・3月 太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。
- ・4月 太平洋側では、数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。
- ・5月 数日の周期で変わり、気温は、平年並または高い確率ともに40%である。

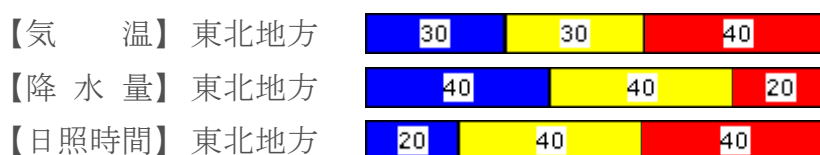
### 〔3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〕



## (3) 1か月予報(3月18日～4月17日)

- ・太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込み
- ・降水量は、平年並または少ない確率ともに40%である。
- ・日照時間は、平年並または多い確率ともに40%である。

### 〔1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〕



## (4) 予報を踏まえた育苗の留意点

- ・浸漬まで種子を置くときは、十分に乾燥させて風通しの良い場所につるすなどムシロ、稲わら等がないところで保管する。
- ・ばか苗病は浸漬水温が高いほど菌が増殖するので注意が必要である。
- ・ばか苗病催芽は26℃前後の温度で感染・増殖するので催芽、出芽温度は30℃程度とする。
- ・無加温出芽では、加温出芽に比べてばか苗病発病苗率が高い
- ・種子の浸漬期間は、温度が高め～平年並みの予想であり、芽の動きに留意して伸び過ぎや酸素不足にならないよう水の交換に注意する。
- ・無加温出芽やシートのかげ過ぎは、葉やけに注意し心配な場合は、葉やけしにくい資材を使用する。
- ・水のかげすぎは、病害や伸びすぎを助長するので、水は控えめに管理する。